

三次・庄原支部

MIYOSHI・SHOBARA

だより

広島県看護協会三次庄原支部会員数

保健師	11名(入会率 13%)
助産師	36名(入会率 97%)
看護師	760名(入会率 68%)
准看護師	38名(入会率 9%)
会員合計	845名(入会率 52%)

理事・役員紹介



県北地域の暮らしを支える 看護のつながりを強化

広島県看護協会
支部担当理事 **阿川 純子**
[市立三次中央病院]

地域のあらゆる世代の人々の、より健康な暮らしを維持するために、この地域に暮らす看護職一人一人の持ち味が活かされ、活躍できることが願いです。看護職自身が世代や施設の枠を超えて協力しあい、つながり人口を拡大しながら看護の継続が図られ、質の向上につながるよう、得られた情報を皆様に届けていながら今年度も努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



ご挨拶

三次・庄原支部
支部長 **寺本 辰美**
[庄原赤十字病院]

平素より広島県看護協会三次・庄原支部の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

県北ではすでに2040年問題に突入しています。「自分たちの地域は自分たちで守る!」会員が、知恵と力を出し合いこの難局を乗り切っていく時です。三次・庄原支部はこの難局を乗り切るための様々な活動を実施していきます。今年度はこれからを担う若い会員の方々にも積極的に参加していただける支部活動にしたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

新任役員紹介



副支部長 **三河内 敬子** [庄原赤十字病院]

看護協会の支部役員は初めてで緊張と不安がありますが、地域の皆様の健康と福祉の向上のため役員や会員の皆様と協力していただけるように頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



副支部長 **下山 美紀** [三次地区医療センター]

いきなりの大役に、ただただ戸惑いを隠せない感じで、新たな空間の中でまだ一歩も歩み出せていませんが、看護協会や三次・庄原支部より封筒を頂く度に実感を噛みしめております。寺本支部長さんを始め、他の役員の方の指導を頂きながら学びながら任務を務めさせて頂きたいと思っております。皆さまよろしくお願い致します。



総務担当 **大石 歩美** [ビハーラ花の里病院]

このたび総務を担当させていただく大石です。いろいろご指導いただきながら支部会活動に貢献し、また、皆様との連携も深めて参りたいと存じます。ご指導賜りますよう宜しくお願い致します。



教育担当 **松本 美由貴** [庄原同仁病院]

この度、教育担幹事をさせて頂くことになりました。わからない事ばかりでご迷惑をおかけしますが、皆様のご指導を頂きながら、支部活動に貢献できるよう努力いたします。よろしくお願い致します。



社経担当 **内藤 由記** [庄原市立西城市民病院]

今年度から新役員を担当させていただきます。分からないことばかりですが、支部活動に貢献できるよう頑張りたいと思っておりますので。ご指導よろしくお願い致します。

三次・庄原支部役員



- 前列左より
三河内・寺本・阿川・下山
- 後列左より
日高・松本・大石・内藤・鯨谷・須原・藤井

役員一同 支部活動が、
会員の皆様にとりまして有意義なもの
になりますように頑張ってお参りますので
ご協力よろしくお願い致します (o^-^o)



地域のトピックス

「くうでるうごく」の取り組み

三次地区医療センター
看護部長 小林 真理子

当院は地域の事業に参画する中、心不全を切り口として高齢者が抱える複数の問題に包括的に対応していく「健康いきいき事業」を立ち上げました。

「くうでるうごく」は、安信病院長が考案した言葉で健康いきいき事業の合言葉です。

この言葉は、健康的な生活を送る為のフレイル予防の3本柱、くう=食べること、でる=社会参加、うごく=身体活動を意味しています。具体的には、バランスの取れた食事、地域の活動に参加すること、そして適度な運動を行うことです。

「くうでるうごく」を合言葉に院内においてもリハビリ・栄養・口腔管理において医科歯科連携、積極的離床などで生活を取り戻すなど質の向上を目指しています。

「くうでるうごく」は健康ひろしま21推進専門部会において心不全に限らず健康づくりの合言葉になっています。



合い言葉は 『くうでるうごく』



「くうでるうごく」の視点を活用して

庄原市内の訪問看護ステーションのBCP連携

庄原赤十字訪問看護ステーション 安部 弘美



訪問看護ステーション(以下ST)では、2024年4月からBCPが義務化され、各々に母体となる施設や病院と連携したBCPを策定しています。2023年度の庄原市内訪問看護ST連絡協議会ではBCPをテーマに合同研修し、個人で準備すること、各STで準備すること、そして連携・協力の必要性が課題に上がりました。医療依存度の高い利用者は、在宅避難中は継続して支援が必要となります。また、避難所避難では、療養の場が変わり体調確認が必要になります。そして私たちスタッフも被災者となり得ます。

訪問看護は、病院や施設と異なり在宅が看護実践の場になり、個々に環境が異なります。策定されたBCPが活用できるように、2024年度からは合同研修で連携・協力のシミュレーションを年1回行っていく計画を立

て、9月19日にケアマネージャへも声をかけ実施します。小規模ステーションだからこそ助け合い、地域の在宅療養者の支援を目指していきます。



訪問看護ステーション合同研修

事業報告 ～令和5年度下半期から6年度～

救急蘇生（初級コース）研修会

教育担当 須原 麻砂江
[広島県立三次看護専門学校]

1 回目：令和6年7月27日（土）
場所：市立三次中央病院
2 回目：令和6年8月3日（土）
場所：庄原赤十字病院
講師
三次会場：市立三次中央病院
クリティカルケア看護認定看護師 中井 晋平 先生
インストラクター2名
庄原会場：庄原赤十字病院
慢性心不全看護認定看護師 富吉 めぐみ 先生
インストラクター1名

三次会場21名、庄原会場11名の参加があり、グループに分かれて救急蘇生の実技を中心に研修を行いました。

参加の皆さんからは、業務中に急変が起こったことを想定しながら学ぶことができ、勉強になった。バックバルブマスクを使う方法を、実際にやることで、くわしく学べたのが良かった。気管挿管の介助の流れを学べたので、場面に立ち合ったら動けるようにしたい。講師の先生の説明もわかりやすく質問もしやすかった。今後に生かしていきたい。他病院の方とも交流できて良かった等のご意見があり、今後に活かせる有意義な研修となりました。



まちの保健室

総務担当 大石 歩美
[ビハーラ花の里病院]

三次・庄原支部の看護事業の一環として、地域住民を対象とした健康に関する相談、健康作り支援のため、地域のコミュニティセンター等に出向いて、「まちの保健室」を行っています。

昨年度より会場数も増え、より多くの住民の方に参加していただけるよう様々な企画を考えています。

今回は、7月17日に吉舎町のコミュニティセンターで、腎不全看護認定看護師・大長美智子さんを講師に迎え、「夏の水分補給～腎臓を守ろう～」というテーマで開催し、11名の住民が参加されました。腎臓のはたらき、慢性腎臓病を

防ぐための注意事項、特に水分補給の重要性、水分不足を知るサインや水分補給の具体的なコツなどについて詳しい解説がありました。参加者も熱心に講義を聴かれ、たくさんの質問が出ました。家に帰ってかかりつけ医からもらった検査データを見直してみたいという意見もありました。

参加者からは、普段健康相談が出来る場が無いためこういう機会を設けてもらえることがありがたいと喜ばれていました。

今後、認知症、感染症、介護保険の仕組み、等をテーマとして各地域に出向き、地域住民の健康増進に貢献できるよう取り組んで参ります。



[吉舎コミュニティセンター]
腎臓病予防について



[三良坂福祉センター]
肺炎予防について



[住吉集会所]
認知症予防について

令和6年度事業予定

実施年月日	事業	場所
令和6年6月	看護研究サポート研修会	市立三次中央病院
令和6年7月27日(土)	BLS研修会(三次)	市立三次中央病院
令和6年8月3日(土)	BLS研修会(庄原)	庄原赤十字病院
令和6年7月 → 中止	進路相談会	三次地区医療センター
令和6年7月26日(金)	進路相談会	庄原赤十字病院
令和6年9月21日(土)	社会経済研修会「自分たちの病院の魅力発信」	庄原赤十字病院
令和6年10月	多職種連携会議研修会(1回)	
令和6年11月	支部便り発行	
令和6年12月	組織強化研修「看護師のおこなう臨床推論」	市立三次中央病院
令和7年1月	多職種連携会議研修会(2回)	
令和7年2月	看護研究発表会	市立三次中央病院

New Face!

頑張っている新人看護師紹介!



看護師 見田 聡介 [庄原市立西城市民病院]

4月から庄原市立西城市民病院でお世話になっております。新型コロナウイルスにより現場に出て実践する機会も少なく初めてのことで戸惑うことも実際多くあります。そのため先輩方的確かな判断力などその場に応じた看護や、実際にわからないことは聞いたり、アドバイスをいただき看護のスキルを身につけていきたいと思っております。また、患者様の気持ちに寄り添い看護を提供できるという看護像を信条とし患者様と限られた時間の中で少しでも多く関わり日々の体調の変化に気づきの確かな処置がでる確かな判断でより良い看護を提供できる看護師になりたいと思っております。

看護師 亀井 佑香 [市立三次中央病院]

4月から市立三次中央病院に就職し、3か月が経ちました。手術室に配属された当初、手術看護の特殊性や機械の種類などに戸惑い、不安や焦りがありました。実地指導者をはじめとする先輩方が気にかけてくださり、そのサポートのおかげで今はできることが少しずつ増えています。

手術を受ける患者さんは不安や緊張など様々な思いを持たれています。そんな患者さんを理解するために術前訪問や細かい声かけ、表情の変化やモニターの観察などに目を向けるようにしています。

まだまだ分からないことも多いですが、患者さんにかかわりながら「手術室での看護は何だろう」と考えています。これからも周りの方への感謝を忘れずに努力していきたいと思っております。



編集後記

県北で頑張っている看護師の皆さんの紹介や支部活動の紹介を通して、少しでも皆様のお役に立てればと願っています。県北の医療を皆さんの力で守っていきましょう。

社経：日高



[発行日] 令和6年11月1日発行

[発行責任者] 寺本 辰美

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 三次・庄原支部
〒727-0013 広島県庄原市西本町2-10-2 OKUDA/ハウス101
TEL/FAX:0824-72-5015 E-mail: s-miyoshi@nurse-hiroshima.or.jp